

式 辞

厳しい冬の寒さの間にも暖かさを感じる日が次第に多くなり、春の訪れが感じられる今日の佳き日に、兵庫県立神戸工業高等学校第七十三回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより教職員一同にとりまして、この上ない喜びでございます。春先から臨時休校となり、緊急事態宣言が二回にわたって発出されるなど、過去に例を見ない一年でありましただけに、卒業証書授与式をここに執り行えることは感慨もひとしおであります。

ただ今、卒業証書を授与いたしました三十名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同心からお祝い申し上げます。また、この日までお子様を支え励ましてこられた保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。こうして卒業式を迎えることができたのは、保護者の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、私は卒業生の皆さんとは四月に着任して以来一年間の付き合いしかありませんでした。始業式や終業式も放送で行なうことが多く、対面して話す機会が少なかった私ですが、卒業にあたり三つの「持つ」ということについてお話ししたいと思います。

まず一つ目は「自信を持つ」ということです。皆さんは、本校における全課程を修了し、大きな目標であった卒業証書を手にすることとなりました。定時制という新しい環境への不安を感じながら入学して以来、昼間働いたのち夜間に学ぶという生活は決して楽なものではなかったはずで、仕事が長引いた日は遅刻してしまい、途中から授業に追いつこうと努力したり、仕事の内容がつかない日には疲れとともに授業を受けたりするなど、決して学びに適した環境ではない中を、よく耐えて最後までやり通しました。途中で挫折する仲間も見えてきたと思いますが、皆さんは易きに流れず四年間を完遂されました。自分に自信を持ってください。

しかし、同時にこの卒業は皆さん個人の力だけで成しえたものではありません。家族や友人、先輩や後輩、先生や職場の上司、同僚など、いろいろな人の励ましや配慮、応援、叱咤激励があったことも忘れてはなりません。陰になり日向になり、皆さんを支えてくれたことへの、感謝も忘れないでください。

二つ目は「責任を持つ」ということです。これから社会に出て一生懸命生きていくわけですが、人生山あり谷ありで、すべてがうまくいくはずもなく、都合の悪いことが起きることが多くあります。都合の悪いことにどう向き合うかで運命は変わってしまいます。自分が関わって起きたことは、相手があったとしても、自分に責任があると考えるようにしてください。このように考えることで都合の悪いことを起さないように自らの行動を変える習慣が身につきます。自分を変えることは成長につながります。自分を変えることができますが、他人を変えることはできません。他人の所為にしないうで自分の行動に「責任を持つ」ことで、人間性が高まり信頼される人間になれるでしょう。

三つ目は「目標を持つ」ということです。どんな目標でもかまいませんが、自分のため以上に他の人の役に立つ、社会の役に立つ目標を考えてください。目標を持つということは、それを達成しようと強く願うことです。経営の神様と呼ばれた松下幸之助氏は講演会の後で、「どうしたらそのような経営ができるのか」と問われて、「思わなあきまへんな」と答えたそうです。期待外れの答えに周囲が失望する中、世界的に著名な経営者である稲盛和夫氏は心に響くものを感じたそうです。どんなこ

とをするにしても、こうなりたいと強く願うことからすべてが始まり、常に願い続けることで成功が見えてくる。そのことを「思わなあきまへんな」の表現から感じ取られたのです。

皆さんも卒業し次のステージに向かわれるときには、自分に「自信を持」ち、自分の行動に「責任を持」ち、社会に貢献する「目標を持つ」て、進んでいってください。

卒業する皆さんが、神戸工業の卒業生であったことを誇りとし、自分の人生を切り拓き、社会に貢献してくれることを心から期待して、式辞といたします。

令和三年二月二十六日

兵庫県立神戸工業高等学校

第二十五代校長 千葉 栄三